

県南地区の県立高校の状況

1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備考
水 沢	普通(200)、理数(40) ※普通・理数くくり募集	240	18	706	
水沢農業	【農業】農業科学(40)、食品科学(40)	80	6	102	
水沢工業	【工業】機械(40)、電気(40)、設備システム(40)、インテリア(40)	160	12	342	
水沢商業	【商業】商業(40)、会計ビジネス(40)、情報システム(40)	120	9	283	
前 沢	普通(40)	40	4	86	R6 学級減
金ヶ崎	普通(80)	80	6	84	
岩谷堂	総合(120) (6系列：人文科学、自然科学、生活・福祉、生物生産、産業工学、流通情報)	120	9	249	R4 学級減
一関第一	普通(160)、理数(40) ※普通・理数くくり募集	200	15	561	
一関第二	総合(200) (5系列：人文、自然、福祉、環境・生活、ビジネス)	200	15	593	
一関工業	【工業】電気電子(40)、電子機械(40)、土木(40)	120	9	291	
花 泉	普通(40)	40	3	94	
大 東	普通(80)、【商業】情報ビジネス(40)	120	9	132	
千 厩	普通(120)、【農業】生産技術(40)、【工業】産業技術(40)	200	15	432	

2 入試の状況

※網掛けは学級減等を表す

※一関第一高校は附属中からの内進生を含む

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
水 沢	普通・理数	240	276	241	1	240	270	240	0	240	242	232	▲ 8
水沢農業	農業科学	40	32	30	▲10	40	22	21	▲19	40	19	18	▲22
	食品科学	40	15	14	▲26	40	14	13	▲27	40	13	12	▲28
水沢工業	機械	40	41	40	0	40	36	36	▲ 4	40	22	21	▲19
	電気	40	24	24	▲16	40	27	27	▲13	40	20	20	▲20
	設備システム	40	26	28	▲12	40	38	38	▲ 2	40	30	30	▲10
	インテリア	40	44	40	0	40	31	31	▲ 9	40	17	17	▲23
水沢商業	商業	40	26	32	▲ 8	40	38	38	▲ 2	40	27	28	▲12
	会計ビジネス	40	23	25	▲15	40	21	20	▲20	40	23	24	▲16
	情報システム	40	49	41	1	40	42	40	0	40	44	40	0
前 沢	普通	80	34	33	▲47	40	23	23	▲17	40	33	32	▲ 8
金ヶ崎	普通	80	45	45	▲35	80	23	21	▲59	80	20	20	▲60
岩谷堂	総合	120	91	91	▲29	120	83	83	▲37	120	81	81	▲39
一関第一	普通・理数	200	194	187	▲13	200	206	185	▲15	200	213	200	0
一関第二	総合	200	233	201	1	200	246	201	1	200	217	202	2
一関工業	電気電子	40	48	37	▲ 3	40	34	29	▲11	40	41	38	▲ 2
	電子機械	40	57	40	0	40	34	32	▲ 8	40	43	40	0
	土木	40	24	23	▲17	40	39	34	▲ 6	40	22	19	▲21
花 泉	普通	40	33	30	▲10	40	29	29	▲11	40	41	40	0
大 東	普通	80	42	42	▲38	80	34	34	▲46	80	27	27	▲53
	情報ビジネス	40	14	13	▲27	40	17	17	▲23	40	3	3	▲37
千 厩	普通	120	77	74	▲46	120	117	115	▲ 5	120	80	78	▲42
	生産技術	40	18	18	▲22	40	37	37	▲ 3	40	30	28	▲12
	産業技術	40	27	25	▲15	40	27	26	▲14	40	34	34	▲ 6
県南地区計		1,760	1,493	1,374	▲386	1,720	1,488	1,370	▲350	1,720	1,342	1,284	▲436

3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

※中段：対前年比、下段：対 R7 年比

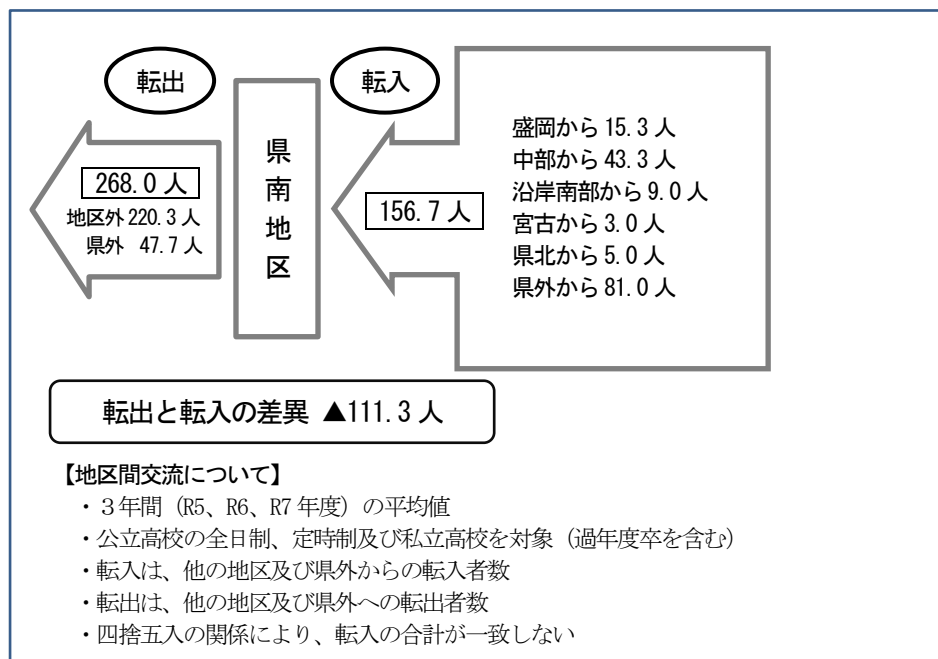
第 3 期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
奥 州	877	928	896	816	905	783	811	758	799	695	615	600	580	524	461
		51	-32	-80	89	-122	28	-53	41	-104	-80	-15	-20	-56	-63
		51	19	-61	28	-94	-66	-119	-78	-182	-262	-277	-297	-353	-416
*江刺	201	212	196	174	205	160	175	153	160	157					
		11	-16	-22	31	-45	15	-22	7	-3					
		11	-5	-27	4	-41	-26	-48	-41	-44					
*前沢	120	118	95	99	98	94	100	91	101	81					
		-2	-23	4	-1	-4	6	-9	10	-20					
		-2	-25	-21	-22	-26	-20	-29	-19	-39					
金 ケ 崎	128	121	135	122	108	125	127	127	113	115	107	103	98	95	81
		-7	14	-13	-14	17	2	0	-14	2	-8	-4	-5	-3	-14
		-7	7	-6	-20	-3	-1	-1	-15	-13	-21	-25	-30	-33	-47
胆江地域	1,005	1,049	1,031	938	1,013	908	938	885	912	810	722	703	678	619	542
		44	-18	-93	75	-105	30	-53	27	-102	-88	-19	-25	-59	-77
計		44	26	-67	8	-97	-67	-120	-93	-195	-283	-302	-327	-386	-463
一 関	894	898	840	807	768	722	750	660	615	573	547	513	485	467	420
		4	-58	-33	-39	-46	28	-90	-45	-42	-26	-34	-28	-18	-47
(県立含む)		4	-54	-87	-126	-172	-144	-234	-279	-321	-347	-381	-409	-427	-474
*花泉	108	103	89	80	86	77	76	78	69	77					
		-5	-14	-9	6	-9	-1	2	-9	8					
		-5	-19	-28	-22	-31	-32	-30	-39	-31					
*大東	74	73	75	58	75	64	74	43	48	43					
		-1	2	-17	17	-11	10	-31	5	-5					
		-1	1	-16	1	-10	0	-31	-26	-31					
*千厩	72	76	75	58	57	61	57	46	56	47					
		4	-1	-17	-1	4	-4	-11	10	-9					
		4	3	-14	-15	-11	-15	-26	-16	-25					
平 泉	68	49	47	50	61	55	62	44	45	41	35	30	26	27	24
		-19	-2	3	11	-6	7	-18	1	-4	-6	-5	-4	1	-3
		-19	-21	-18	-7	-13	-6	-24	-23	-27	-33	-38	-42	-41	-44
両磐地域	962	947	887	857	829	777	812	704	660	614	582	543	511	494	444
		-15	-60	-30	-28	-52	35	-108	-44	-46	-32	-39	-32	-17	-50
計		-15	-75	-105	-133	-185	-150	-258	-302	-348	-380	-419	-451	-468	-518
県 南	1,967	1,996	1,918	1,795	1,842	1,685	1,750	1,589	1,572	1,424	1,304	1,246	1,189	1,113	986
		29	-78	-123	47	-157	65	-161	-17	-148	-120	-58	-57	-76	-127
地区計		29	-49	-172	-125	-282	-217	-378	-395	-543	-663	-721	-778	-854	-981

* 合併前の旧市町村名(内数)

卒業者 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1 5才・4才 4才・3才 3才・2才 2才・1才 1才・0才

4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
水沢	6	232	237	232	213	230	207	211	199	204	182	161	156	151	138	121
水沢農	2	30	35	34	31	34	31	31	29	29	26	24	23	22	20	18
	参考値		35	34	32	34	31	31	29	30	26	24	23	22	20	18
水沢工	4	88	117	113	103	113	99	103	97	100	88	79	77	74	67	59
水沢商	3	92	97	96	87	96	85	86	82	84	74	65	63	61	55	49
前沢	1	32	27	25	24	26	23	26	22	24	20	19	18	17	16	14
金ヶ崎	2	20	28	28	26	27	26	26	25	25	23	20	20	19	18	15
岩谷堂	3	81	84	81	73	82	69	74	67	69	65	57	56	54	49	43
一関一	5	200	177	163	162	150	145	148	131	125	114	109	102	96	93	83
	参考値		187	173	172	160	155	157	140	133	122	117	110	105	101	91
一関二	5	202	194	178	175	166	158	163	146	139	127	120	112	106	102	91
	参考値		195	179	176	167	159	164	147	140	128	121	114	107	103	92
一関工	3	97	93	86	85	81	77	79	70	67	61	58	54	51	49	44
	参考値		94	87	86	82	78	80	72	68	63	59	55	52	50	45
花泉	1	40	29	26	24	24	22	22	22	19	21	17	16	16	15	13
	参考値		32	29	27	27	25	25	25	22	23	20	19	18	18	16
大東	3	30	36	37	32	37	31	37	25	25	22	21	19	18	18	16
千厩	5	140	123	122	111	111	99	108	93	86	79	79	75	70	68	61
	参考値		124	123	112	112	100	109	93	86	79	80	75	71	68	62
計	43	1284	1277	1221	1146	1177	1072	1114	1008	996	902	829	791	755	708	627
必要学級	33		32	31	29	30	27	28	26	25	23	21	20	19	18	16
参考値計			1293	1237	1163	1193	1088	1129	1023	1010	915	843	805	769	721	641
参考値必要学級数			33	31	30	30	28	29	26	26	23	22	21	20	19	17

【入学者推計について】

- ・ R 7 は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7 年度募集定員より 40 名以上の欠員又は 20 名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値

令和 7 年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
中部	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
県南	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
13		工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

計 59

113学科（学系）

8,520 6,531 ▲ 1,989 6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回） 開催結果

1 実施時期

令和7年8月20日（水）～8月29日（金）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第2回会議内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 8月28日	サンセール盛岡	18	12	16	6	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 8月20日	サンセール盛岡	16	6	6	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 8月21日	東和総合福祉センター	18	6	12	13	49
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年 8月26日	奥州市役所 江刺総合支所	17	5	15	13	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 8月29日	陸前高田市 コミュニティホール	22	3	8	10	43
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 8月21日	宮古地区 合同庁舎	19	0	7	11	37
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 8月20日	久慈地区 合同庁舎	17	3	5	5	30
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 8月22日	二戸地区 合同庁舎	13	1	5	10	29
計				140	36	74	75	325

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354

地域検討会議（第2回）の主な意見等

地 区	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 8月28日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初案において、1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。 ・ 高校の統廃合により、生徒の通学時間や交通費等が増えることが懸念されるが、教育の機会の保障という計画の趣旨に反するのではないかと。 ・ 当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。 ・ 学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないかと。 ・ 地域産業を担う人材の育成は、住民生活や地域振興にも大きな影響を与えるものであることから、地域課題を具体的に学ぶ学科やコースの設置、教育課程の弾力的な編成を今後も検討していく必要があると感じているところ。 ・ 当初案については、これまでの議論を通じて地域の声が反映され、小規模校への配慮も一定の納得が得られると評価する。
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 8月20日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平舘高校および大船渡東高校の家庭系学科の募集停止により、県内の家庭系学科が2校のみとなる可能性があり、家庭科教育の将来に不安を感じている。 ・ 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。 ・ 少子化だけでなく、社会の変化を見据えた高校再編が必要であり、単なる人数調整ではなく将来を見据えた視点が重要だと感じている。 ・ 今回の第3期県立高校再編計画案は、地域産業や子どもたちへの配慮が感じられ、非常に評価している。 ・ 平舘高校の家政科学科について、令和9年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。 ・ 再編計画については、生徒数の減少を踏まえるとやむを得ないと感じているが、地域に学校や学科がなくなった場合、郷土を支える人材育成が困難になるのではないかと不安がある。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 8月21日(木) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。 ・ 黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。 ・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。 ・ 地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。 ・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にいただいたことに感謝する。 ・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないかと。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 26 日 (火)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大東高校の学級減等の判断は、令和 8 年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和 9、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。 近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。 下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。 杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。 金ヶ崎高校の水沢高校への統合について、今後、金ヶ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。 1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 29 日 (金)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。 大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。 地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。 少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。 水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していきたい。 今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 21 日 (木)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔軟かい表現に検討できないか。 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。 水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。 子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。 計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 20 日 (水)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 久慈翔北高校は本年 4 月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。 地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。 生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。 子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。 水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 8月22日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていたきたい。 ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。 ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。 ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。 ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。 ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。

地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
盛岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 28 日 (水)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。 ・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。 ・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。 ・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。 ・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 4 日 (水)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。 ・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。 ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。 ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。 ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 5 日 (木)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。 ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。 ・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。 ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないか。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。 ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。 ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 26 日 (月)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。 ・ 中学校卒業業者について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。 ・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。 ・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和 7 年 5 月 23 日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学級の定員を 40 人から 35 人に出来ないか、検討していただきたい。 ・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。 ・ 各地域に高校を 1 校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。 ・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。 ・ 医師確保や IT 人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。 ・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。 ・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が 2 年連続 20 人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。

**今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（県南地区）
意見交換の記録（要旨）**

【奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市】

令和7年8月26日（火）

奥州市役所江刺総合支所 2階会議室

■ 質問

高橋 寛寿 金ケ崎町長

- ・ 金ケ崎高校の直近6～7年間の入学者数は20名前後とはなっているもの、県の募集停止である20名以下の基準にはまだ達していない。今回この段階で統合の案が出された背景や理由について説明頂きたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ まずは管理運営規則に基づき学級を1減とし、そのうえで金ケ崎高校については、公共交通機関を利用し周辺高校への通学が可能であることから、募集停止の案としている。

■ 意見交換

倉成 淳 奥州市長

- ・ 岩谷堂高校の農業・工業系列の廃止案については、地域産業の発展に対応した教育内容の進化が必要。また、両系列の教育は地域の企業や人材需要に直結しているため、地元産業への配慮が求められる。
- ・ 杜陵高校奥州校については、奥州市在住の生徒が多く、金ケ崎高校校舎への移転による公共交通の課題があるため交通整備への配慮が必要である。また、体育館の有効活用も検討してほしい。
- ・ 前沢高校については、バドミントンが盛んで地域との連携も強く、特色ある教育活動として評価できる。
- ・ 当初案については、後期計画の位置付けが明確でないため、中長期計画のコンセプト、岩手人の強みの深掘り、AI時代に生き残る人材育成等を明確化する必要がある。また、ターゲットを岩手県内の中学生だけでなく、県外生にも広げることが望ましい。

高橋 寛寿 金ケ崎町長

- ・ 今後、教育の場を子ども達にどのような形で提供することが良いのか改めて真剣に検討しなくてはならない

青木 幸保 平泉町長

- ・ 平泉はこれまで奥州や北上など周辺に高校の選択肢が多くあったが、今後は岩手全体として人材を育てていくために、高校の再編が重要である。
- ・ いわて留学などを通して、岩手県としての人材育成方針や特色ある取り組みを明確に示していくことが必要である。
- ・ 生徒数は減少傾向にあるが、国道4号線や東北本線が通る中心的な立地にあり、進学先の選択肢を広げやすいのではないかと注目している。

佐藤 善仁 一関市長

- ・ 地域校の位置付けは評価できる。地元自治体や住民と連携して教育活動や入学者確保に取り組むことが重要である。

- ・ 一方で、大東高校の学級減等の判断は、令和8年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和9、10年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。
- ・ 進学の数値をもとに固有名詞を出すと、地域にマイナスのイメージを与えてしまう。ルールを設けること自体はやむを得ないが、結果数値に基づいた記載をしてほしい。
- ・ 産業人材をどう育成するかという観点から、専門高校の在り方を検討してほしい。県南地域における工業高校の新設などもその文脈で考えるべき。
- ・ 地域校は教育の質の維持だけでなく、地域の活力維持や地域課題解決にも貢献する存在である。地域振興の観点からも知事部局とも連携して十分な検討を進めるべき。

小野寺 博一 奥州商工会議所 常務理事

- ・ 近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。
- ・ 人手不足解消の観点から卒業後すぐに社会で貢献できる人材の育成、地域に根ざした工業・農業などの職種に対応した育成を目指してもらいたい。

佐藤 裕樹 奥州地方森林組合森林整備課 課長補佐

- ・ 人口減少に伴い高校再編は避けられないが、高校がなくなると生徒の通学が大変になる。
- ・ 下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。

菊地 清晴 金ヶ崎町商工会 会長

- ・ 生徒数減少は避けられないため、高校再編の方向性はやむを得ないと理解している。
- ・ 人口減少が続く中で高校を維持するには、地元だけでなく他地域からも生徒を呼び込めるような仕組みづくりが必要である。

青木 長男 平泉町農業委員会 会長職務代理者

- ・ 水沢工業高校と一関工業高校の統合の計画があるとのこと、新校舎に寮を完備し、県外から入学する生徒を確保してはどうか。寮生活についてそれぞれメリット・デメリットはあるとは思いますが検討して頂きたい。

菅原 照之 一関商工会議所 副会頭

- ・ 一関第一高校が学級減となると、中高一貫により進学する生徒70人に対して募集枠が少なくなり、バランスが崩れてより狭き門になってしまうことに理不尽さを感じている。
- ・ 普通科内に「探究科」を設ける必要性や目的が不明であり、何を狙っているのかが見えない。
- ・ 5年先の統合に目がいきがちだが、15年後20年後の危機感を県全体で共有すべきである。

岩淵 紗由美 奥州市PTA連合会 会長

- ・ 高校の統合はやむを得ないと思うが、生徒が夢や進路を実現できるよう、充実した学校生活を送れる環境づくりが大切である。
- ・ 共働き家庭が増えており送迎が難しいため、統合にあたっては公共交通機関の利便性や通学環境を十分に考慮してほしい。
- ・ 公共交通機関の充実と並行して、寮や下宿といった生活環境の整備も進めるべきである。

及川 誓士夫 平泉町立平泉中学校PTA 会長

- ・ 金ヶ崎高校では在校生が統合の報道に動揺しているという意見を保護者から聞いている。案の公

表前後で生徒へのケアが必要ではないか。

- ・ 一関第一高校の学級減について、内進生がいる中での入試への影響を、保護者としては懸念している。
- ・ 地元中学生の進学動向を踏まえるなら、内進生がいる学校の対応についても早めに検討・情報発信する必要がある。
- ・ 高校教育は人材育成の観点からも重要であると考えている。卒業後の進学・就職の環境整備を含めて検討して頂きたい。
- ・ 中学生がスポーツに力を入れている私立高校へ進学している傾向があると感じており、県立高校も負けない魅力づくり等のアピールが求められる。

小野寺 慎也 一関市PTA連合会 副会長

- ・ 統廃合により通学環境が悪化することを懸念している。子どもたちが安心して通える交通環境の整備を望む。
- ・ 子どもたちが希望する進路を実現するために、選択肢が狭まらないような高校づくりを求める。

高橋 勝 奥州市教育委員会 教育長

- ・ 定員割れが多い状況の中で、一定の学級数や募集停止の基準を設けたことについては理解、評価できる。
- ・ 金ケ崎高校の募集停止については、他の同様の条件の高校との整合性に疑問があり、状況を見守る期間を設けてもよいのではないかと感じる。
- ・ 杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。
- ・ 学校移転については、通学の利便性が損なわれる可能性があるため、在校生や進学予定の中学生、保護者の意見をきちんと把握した上で進め、通学支援などの配慮も必要である。

千葉 和仁 金ケ崎町教育委員会 教育長

- ・ 金ケ崎高校の水沢高校への統合について、地域として非常に残念であるが、在校生や来年、再来年に入学する生徒は、金ケ崎高校の校舎で卒業できるとの説明を受け、一定の安心感を得たところである。
- ・ 一方で、在校生の中には「学校がなくなる」ということに不安を抱いている生徒もあり、心情面が懸念される。今後、金ケ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。
- ・ 杜陵高校奥州校の移転に関して、各校で登校時間や、制服や私服といった様々な違いが存在することから、両校の生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校側に十分な配慮を望む。

吉野 新平 平泉町教育委員会 教育長

- ・ 平泉町の生徒は現在、水沢や一関の工業高校へ通うなど、選択肢が比較的多い状況にある。
- ・ 北上川流域を中心に工場が広がっており、そうした産業に必要な人材を育成することは地域の発展に不可欠である。新たに設置される県南工業高校については、単なる統合ではなく、企業が求める人材を輩出する前向きな新しい学校として設計してほしい。

時枝 直樹 一関市教育委員会 教育長

- ・ 一関第一高校の学科改編については、教科横断的な学びや県政課題に対応した人材育成につながると期待している。ただし、普通科と探究科の違いが不明確であり、志願を検討する中学生や保護

者にとって分かりにくい。再編計画の中で、どのような人材育成が行われるのか、ある程度明記して示す必要がある。

- ・ 1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。
- ・ 大東高校の情報ビジネス科について、生徒数減少に伴う募集停止の基準を設けることは理解できるが、大東高校は地域とのつながりが強く、基準を今年度から適用するのは受け入れがたい。令和 9 年度からの適用とするよう求めたい。
- ・ 募集停止や学級減を括弧書きで明記すると、生徒数減少を誘導する結果になりかねないため、記載には十分な配慮が必要である。

勝部 孝行 一関地方中学校長会（一関市立桜町中学校長）

- ・ 少子化や多様性への対応を考えると、県立高校の学科再編や統廃合、定員見直しは避けて通れない課題であると認識している。
- ・ 桜町中学校を例にすると卒業生の進学先は地元の県立高校が約 60%、学区外の県立高校・高専が約 20%、私立高校が約 15%、特別支援学校が数名となっている。
- ・ 近年は私立高校への専願受験が増加傾向にある。要因として「特定の部活動を希望する生徒」「不登校・発達障害など配慮が必要な生徒への手厚い対応」「特色あるカリキュラム」が挙げられる。かつての滑り止めの受験は減っており、今後も私立への流れは続くと考える。
- ・ 標準 40 人学級を見直し、県が財政的に負担して 35 人学級の導入を検討してはどうか。広大な県土を抱える岩手の状況や少子化を踏まえ、1 学級あたりの規模縮小が必要と考える。
- ・ 中学校では特別な支援や配慮が必要な生徒が年々増えており、高校も同様に対応に苦労していると考えられる。5 人減るだけでも、学級運営や教員の負担軽減、多忙化解消に大きく寄与するため、検討の価値がある。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 大東高校の普通科は管理運営規則の基準により 1 学級減とするものであり、情報ビジネス科については、近年の入学者の状況等を踏まえ、再編計画に位置付けて募集停止とするものである。情報ビジネス科の募集停止について、再編計画に位置付けるのではなく、新たな基準により判断するため一定の猶予をいただきたいということについては、検討させていただく。
- ・ いわて留学として県外募集を実施しているが、どこの自治体でも住まいの確保に課題がある。しかし、住まいを確保した自治体にある高校については一定数の県外生が在籍しており、地元自治体との連携が重要である。
- ・ 一関第一高校では、現在、関係者により探究学習に重点を置いた新たな学科の検討を行っているところである。SSH により培ったノウハウを活用し文理横断的な学びを実践し、世界に羽ばたく人材を育成したいと考えているところ。今後、県南地区でも中学校卒業予定者が大幅に減少することから、今回、推測される学級減の時期に一関第一高校も記載があるが、中高一貫校であることを考慮したうえで、実際は機械的に判断することなく、慎重に判断していきたいと考えている。
- ・ 今回の計画においては、宮古水産高校に寮を整備することを検討しているが、今後 20 年先を考えたときには、それぞれの地域で寮の整備が必要になる可能性がある。その際は、保護者の経済的な負担も考慮しながら検討したい。
- ・ 今回、推計により学級減等の時期を記載したものであるが、地域の方々に地元の高校の状況を理解していただくために記載したものである。

佐藤 善仁 一関市長

- ・ 括弧書きや書体の扱いなど、記載の仕方についてはさまざまな方法が考えられ、関係者間でルー

ルの理解を深め、共通認識を持つことは必要ではあるが、計画の段階で固有名詞を明記するとネガティブな印象や不安を招きかねないため、切り分けを工夫してほしい。今は案の段階であるが、最終決定の際にはこうした配慮をお願いしたい。

勝部 孝行 一関地方中学校長会（一関市立桜町中学校長）

- ・ 中学校卒業生の動向に沿って再編計画を立てているが、県教委としてはその流れを逆にする発想はないのか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 大規模市町村から小規模校を希望する生徒がいることを確認しており、そうした生徒の進学希望にも対応できるよう配慮したい。
- ・ 地域校の配置には、一関市内から花泉などへ流れる生徒の状況や、県北沿岸地区の不登校傾向の生徒の受け皿確保などを踏まえている。単純に人数基準で判断するのではなく、どのような形で高校が存続できるのか慎重に検討を重ねていきたい。